

成高の校歌の話……という依頼でした。歌詞の解説をして許してもらおうと思います。

○校歌はいつできたか？ わかりません。情けない話ですが、明治 37 年の五周年記念式典で歌われた記録が残っているだけです。成高の歴史を書いた本は多いのですが、校歌成立については今後の課題と言いつつ、もう五十年ぐらい放置されています。

○誰が作ったか？ 作曲 東儀鉄笛（とうぎ てつてき） 雅楽家で、俳優としても活躍しました。早稲田大学の校歌（「都の西北～」です）の作曲家。よく CD を出してる東儀秀樹とは別の家系だそうです。 作詞 大和田建樹（おおわだ たけき） 国文学者でたくさん本を書いていた人です。『鉄道唱歌（汽笛一声新橋を～）』の作詞をしています。



○どう表記するのが正しいの？ 最初に書いたとおり、成立時の底本がないので、現在は百周年記念館の脇にある碑に依拠しているようです。

○意味がよくわかりませんが？ 不勉強だね。ほれ。

・水か空か 九十九里の波は、水平線が一直線。特に荒天の時には、どこまで黒潮の海で、どこから暗い空なのかわからない。それをこう表現したんだろう。

・のぞむ ここは他動詞「望む」。成高の位置から海の方を見てごらん。「海近く」で、南の方には太東岬に続く海岸線が伸びてるだろ。ちなみにグランド脇の部室北にある森が入道山、戦後歌わなくなっちゃった二番は「北の窓には入道の」で始まって。

・九十九里 このあたりを砂浜を「九十九里」と表現するようになったのは、近世初期かららしい。ものの本によると、慶長 4 年（1599）の記録があるらしい。

・さかまく これ、東映映画の「ざっばーん」じゃないのよ。岩にぶち当たって砕け散る波ではなくで、九十九里浜ではしょっちゅう見られる、潮の流れに逆らって盛り上がってくる波を「逆巻く」と形容するんだ。ま、「ビックウェーブ」ってどこ？ 「ビックウェーブが雲とハイタッチしちゃった」だぜ、イエイ……って古すぎ？ ジジイ過ぎる？ ミッキーカーチスみたい？

・いさり 「漁り」、つまり漁のこと。「漁り火」という熟語が現在でも残っていて、君達がおっさんになると歌うであろう演歌にはしょっちゅう出てくる

・師友 先生と友達。元来「師友」は「師のように尊敬できる友人」のことだったとか。鳴外はそういう文脈で使ってる。「教師いらね」という人は、お好きな方の解釈でどうぞ。

・百難千苦 さまざまな困難。「艱難辛苦（かんなんしんく）」。「これぞ日蓮が一生に受けたる百難千苦の初めなる」（大和田建樹『日本歴史譚』第 11 編「日蓮」、明治 31 年、博文館）

・しのがずば 「しのが」は、苦難に耐えて努力すること。右から左に受け流すのではない。成高生は正統派ベビーフェイスなのだ。（ちなみに新日本プロレスのストロングスタイル、永田裕志は成高 OB。）「ずば」は漢文脈（センターで出たっ！）でよく使われる仮定条件。「A ズンバ B [打消]」で、「もし A しなれば B ではない」の意味。

・世の浪風 「浪」はさざ波のことだが、それじゃ世間の波はかえる一く乗り越えられちゃう。（そのせいか、『六十周年記念誌』本文には「波風」と書いてある。）世間の厳しさを波風にたとえるのはオヤジの基本形。

・勝たるまじ 「勝たるまじ」＝「勝つ・ことができない・にちがいない」

○いっそのこと現代語訳して？ 図々しい奴だな。勉強というのは自分でするもんだ。

水か空かの海近く	水平線が空に溶け込む海が近い。
南にのぞむ九十九里	南に遠く九十九里浜を眺めると
さかまく波は雲をなで	逆巻く波は雲にかかりそうで、
いさりの舟は沖にみつ	漁をする船は沖にあふれてる。
ああこの海ぞわが進路	ああ、この海が私の進む道、
ああこの舟ぞわが師友	ああ、この船が私の先生や友。
百難千苦しのがずば	無数の試練に耐えなくちゃ、
世の浪風に勝たるまじ	世間の波風には勝てないさ。

○できれば品詞分解もしてくれませんか？ 甘えんじゃねえ！ それじゃあ「世の浪風に勝たるまじ」と言いたいところだが、国語の宮代先生は神、品詞分解してくれました。おめーら、図書館に向かっ

て二礼二拍！

(名) (係助) (名) (係助) (格助) (名) (形・用)
 水 か 空 か の 海 近く
 (名) (格助) (動・体) (名)
 南 に のぞむ 九十九里
 (動・体) (名) (係助) (名) (格助) (動・用)
 さかまく 波 は 雲 を なで
 (名) (格助) (名) (係助) (名) (格助) (動・用)
 いさりの 舟 は 沖 に みつ
 (感) (代名) (格助) (名) (係助) (代名) (格助) (名)
 ああ この 海 ぞ わ が 進路
 (感) (代名) (格助) (名) (係助) (代名) (格助) (名)
 ああ この 舟 ぞ わ が 師友
 (名) (格助) (動・未) (助動・打消・未) (接助)
 百難千苦 を しのが ず ば
 (名) (格助) (名) (格助) (動・未) (助動・打消・止) (助動・打推・未)
 世 の 浪風 に 勝た る まじ

○で、どうオチがつくの？ お笑いじゃないんだから、オチはない。いいかげんにしなさい。ども、ありあとあした～。



というわけにもいかないから、一枚、絵を紹介するぞ。これは、ドイツロマン派を代表する画家フリードリヒの『霧の海を眺めるさすらい人』。題名のとおり、描かれているのはじっさいの海ではなく、雲海だが、描かれている情景は成高校歌そのものだ。

男は背を向けているので、彼の顔に浮かんでいるものが、決意か不安か、はたまた恐怖か知ることはできない。でも、男が「立ち向かっている」ことだけは確かだ。

君は、まもなく世間へと旅立つ。水と空との判別もできないほど混沌とした未知の世間に対して、君が希望を抱こうと、不安にかられようと、君は旅立たなければならない。時化でも漁に出る、それが大人になるということだから。その時、徒手空拳で旅立つ君

の手許にあるのは、世間に立ちむかう「決意」だけなのだ。

成高校歌は、君に決意を促しているのだ。

来たるべき（多くの諸君には近日中にやってくる）試練に、決意を胸に、毅然と立ち向かってくれたまえ。

こんな感じでエールを送るぞっ。

—成高生よ、世の浪風に勝つのだ。



波風に勝つのだっ

